

ワクチン接種の推進より検診の強化を

～子宮頸がんワクチンは、必要か？有効か？安全か？～

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井美智子

〒790-0931 松山市西石井 1-3-30

電話 090-8971-7721

ファックス 089-964-3903

ホームページ <http://www.mezasukai.com/>

メール michikoaoi25@yahoo.co.jp

昨年（2009年）10月に厚生労働省が認可して以来、いわゆる子宮頸がんワクチンは画期的なワクチンであると宣伝され、「ワクチンで予防できる唯一のがんから女性を守ろう」という運動が起きた。今年（2010年）の5月頃から各地の自治体で中学入学頃の女兒への集団接種と公費助成が始まり、10月末現在、実施した自治体数が300くらいになるという。9月に入ると、テレビやタウン情報誌なども啓蒙（？）に加わって、人々は子宮頸がんがあたかも新種の伝染病であるかのような錯覚に陥った。

当初、我々は運動の余りに急激な高まりに違和感を持っていたが、一方で、素晴らしいワクチンに反対する理由はないと考えていた。ところが、7月頃からネット上に、副作用の危険性や無効性を指摘し接種に反対する意見が登場し、接種の是非について社会に混乱が生じた。月刊誌「WiLL」11月号（9月下旬発売）に載った「子宮頸がんワクチン なぜそんなに急ぐのか」と題する論文では、この混乱の元凶は、マスコミや政治、製薬会社に同調して科学的根拠もなくこのワクチンを特別扱いした役所だとしている。また、ワクチンを打てば罹患しないという保証はないし、効果の程度も明らかでない（つまり公費助成は無駄になりかねない）としている。

朝日新聞はワクチンの認可以来、集団接種と公費助成の推進の大旗を振ってきた。ところが10月に入ると、検診とワクチン接種の併用へと論調を変えていき、11月の初めには、「ワクチンの限界を知るべきだ」とまで言った。

ワクチン接種を推進する人達は、子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルス（HPV）だと言う。しかし、原因は複合的だと言う専門家もおり、断定はできないようである。また、ほとんどすべての女性が生涯に一度はHPVに感染するとされるが、子宮頸がんを発症するのは感染者のごく一部に過ぎない（0.1%以下という推定がある）。しかも、発症するのは10年、20年という長年月の経過後である。

これは、HPV がありふれたおとなしいウイルスであり、人がもともと HPV に対して免疫力を備えているからである。そうでなければ、世の中には子宮頸がん患者が溢れているはずである。

自然免疫力で対抗できる弱い HPV に対しては、ワクチンによる人工的免疫付与は不要であり、無意味に近い。また、接種を想定しているワクチンの HPV 排除効果は 6 割程度に過ぎない。さらに子宮頸がんの原因が HPV と断定できない可能性を考慮すると、効果は怪しいと言わざるをえない。副作用の懸念もある。

画期的な子宮頸がんワクチンという高い評価は既に過去のものになっている。急いでワクチン接種をしなければという強迫観念を脱却し、大騒ぎを止めるべきである。ワクチンを接種しさえすれば安心とはいえないのであり、ワクチンを接種しても検診が必要なのである。我々は、ワクチン接種は不要で無効だと判断する。税金はワクチン接種に浪費するべきではなく、検診の強化にこそ使うべきである。

参考のために、我々が考える基礎とした子宮頸がんワクチンに関する知識および判断の理由について以下に詳しく説明する。その知識は新聞や市販雑誌などから得たもので、専門誌からではない。なお、出てくる数値には諸説があり、確定されていないものが多い。

(1) 子宮頸がんとその原因について

- 年間に約 1 万 5 千人が子宮頸がんを発症し、約 3500 人が亡くなる。
- 最近若い女性の患者が増えている。
- それなのに検診の受診率が低い。
- ワクチン接種推進者は、原因はほとんどすべてヒトパピローマウイルス (HPV) であると言う。一方、原因は複合的なのであって、HPV が原因だと断定はできないという異論がある。たとえば、喫煙者は罹患しやすい。

(2) ヒトパピローマウイルス (HPV) とその感染について

- HPV はありふれたおとなしいウイルスである。
- HPV には非常に多くの型がある。
- 性交渉経験のある女性は生涯に一度は HPV に感染する。あるいは、大半の女性が性交渉によって感染するという言い方がされる。「大半」とは 8 割程度らしい。

(3) 子宮頸がんになるのはヒトパピローマウイルス (HPV) 感染者のごく一部

- 人はもともと HPV に対して抵抗力 (免疫力) を持っている。
- だから、HPV に感染しても、ほとんどの場合免疫力で排除されるため、感染した人のごく一部しか子宮頸がんを発症しない。「一部」とは、1% 足らずという

専門家がいる一方、0.1%以下だという推定もあるという。

【注】子宮頸がんの組織からは HPV が見つかるという。上の推定はそれを背景にして述べられているように思われる。この推定から子宮頸がんの原因が HPV であるかのような印象を受けるかもしれないが、既述のように、必ずしもそう断定はできないと言う専門家もいる。

- 前がん状態を経て子宮頸がん発症に至るのは、感染から 10 年、20 年後である。検診を心掛けていれば、この間に見つけて、治療できる。慌てることはない。
- 今回の騒動の一因は、国民の間に広まった「HPV 感染＝子宮頸がん発症」という誤解ではないだろうか。

(4) 「子宮頸がんワクチン」は、正確には「HPV ワクチン」である

- 子宮頸がんワクチンと呼ばれているワクチン（英国のグラクソ・スミスクライン社製のサーバリックス）は、実は HPV 感染を予防するワクチンである。「子宮頸がんワクチン」という呼び方は、HPV が子宮頸がんの原因だと確定しないうちは正確ではない。

(5) ワクチンの効果は？

- HPV には多くの型があるが、ワクチンが効果があるのは HPV-16,18 に対してである。この 2 つの型の HPV は日本人子宮頸がん患者の 6～7 割から検出される。それで、ワクチンの効果は約 6～7 割と言われる。約 7 割と言う場合、類似の他の型の HPV に対する多少の効果を期待することもある。

【私見】ワクチン接種が他の型の HPV への感染を助長し、効果を低下させる結果になるかもしれない。

- 言い方を変えれば、HPV 感染の 6～7 割しか防げない。
- ワクチンは予防のためのものなので、がん発症者や HPV 感染者は治せない。

(6) 十代前半の女兒にワクチンを集団接種する理由

- 上記のように、ワクチンは HPV 感染者には効果がない。感染前の十代前半の女兒を接種の対象にするのはそのためである。
- 子宮頸がん検診の受診率が低いので、ワクチン接種で補う。
- 一部の推進者は本当の意図を隠していると言われる。それは、子宮頸がんワクチンパンフレットの生徒向けマンガ冊子に「セクシュアルデビュー前に」という言葉が使われていることから推測できるように、性の解放に向けた心理的障壁の除去である。

(7) 成人にはワクチン接種ではなく検診の受診を勧めるべきである

- 年齢が上がるほど HPV 感染率は上がる。感染者へのワクチン接種は無益であるから、成人にはワクチン接種ではなく、検診の受診を勧めるべきである。

(8) ワクチン接種をしても検診が必要である

- HPV 排除効果は 6 割程度である。
- 新しいワクチンなので有効期間がはっきりしない。
- だから、ワクチンを接種したから安心と思ってはいけない。検診を受ける必要がある。

(9) 子宮頸がんになりやすい人

- HPVは非常におとなしいウイルスで、がんになるのは感染者のごく一部である。
(既出)
- 中でもがんになりやすいのは、免疫上の問題があつてウイルスを排除できない人、喫煙者(既出)、検診を受けていない人である。他に、がんになりやすい体質の人も入れられるのではないか。

(10) 子宮頸がんになりやすい人に対してワクチンは有効か？

- 免疫上の問題がある人に対してワクチンが無効なことは自明である。
- 喫煙者が子宮頸がんになりやすいとすれば、それは発症の主原因が HPV 感染というより喫煙であることを意味するのではないか。なぜなら、大多数の女性は HPV に感染するが、がんを発症しないからである。ワクチンが有効とはいえない。

(11) 副作用の懸念が拭いきれない

- 流産のリスクが高まるという専門家による調査報告があるという。特に妊娠の前後の接種はリスクが高い(最後の接種から 3 カ月以内の流産のリスクは 14.7%で、非接種の場合より約 6 割高いという)。流産のリスクが高まることは、ある種の不妊化と言えないこともない。これは統計的にしか判らないことなので、表面化しにくい。
[注] このワクチンには不妊化化合物スクワレンが含まれているというネット情報があつたが、誤りだったようである。ただし、2010 年に輸入した新型インフルエンザワクチンには入っていたという。間違いだったとはいえ、疑われる原因はあつたのである。
- ワクチンは身体にとっては異物であるから、接種後の発熱や体調不良など軽い副作用は当然あるはずである。
- 重篤な副作用がまれに起きると述べた説明文書があるという。接種の際に、どのように説明するのだろうか。
- 病気を抱えている人には致命的な副作用がありえる。

(2010.12.20 初稿, 2011.2.20 改訂)